

## 大使コラム（2013年7月）

7月、リスボンにも、いよいよ夏の到来です。今年は年の初めから雨が多く、温度も例年より低い日が続いて、農作物の生育のためにも暑い夏が待ち望まれていました。先月下旬に、国際ロータリーのリスボン世界大会が始まった頃から温度が急上昇したのは、大会の熱気が影響したのでしょうか。

約30年ぶりに日本の方が国際ロータリーの会長を務めたこともあって、右大会には、日本から2300人以上が参加されました。ポルトガルへの日本人観光客が年間6万人に満たない中で、この数日間にこれ程多くの方が日本から来られたのは異例です。

大使館でも、これを両国の交流を深める好機と考え、特にポルトガルと都市交流のある地域からいらした双方のロータリーの方々に、交流のお手伝いさせていただきました。公邸での交流会には、双方の関係地区の会員だけでなく、ポルトガル側の市長さん等が参加されたところもありました。日本の市長から相手の市長宛の親書を携え、相手の友好都市を訪問した方々もいらっしゃいました。

日葡両国の豊かで多様な地方の文化や社会、歴史をロータリーの方々が伝え合うことで、国同士の相互理解と友好の発展にもつながると考えたわけです。今回の出会いをきっかけに、この分野での交流もさらに発展することを願っています。

先月はこの他にも、いろいろな行事に参加する機会がありました。

15日に行われた「フェスタ・ド・ジャポン」は、大使館とリスボン市等が共催で行う「日本祭り」で、今年で3回目です。6月の一月間行われる「リスボン祭り」の行事として、また今年は、種子島にポルトガル人が初めて来訪（1543年）してから470周年の記念行事の一つとして実施しました。市内のベレーン地区にある「日本公園」では例年より多く咲いた桜の花もすでに散っていましたが、昨年よりも規模を拡大した祭りの会場では、日本から立命館アジア太平洋大学（APU）の学生グループが、和太鼓の演奏や地方の伝統舞踊を披露してくれました。このグループには、インドネシアと韓国の留学生も参加していました。

また、日本の音楽バンド「キウイとパパイヤ、マンゴーズ」の演奏もありました。多様な日本文化の紹介や和食の販売なども好評で、午後4時から夜の9時過ぎまで、昨年を大きく上回る参加者、来訪者を得て大変な盛会となりました。今後も毎年、「日本祭り」がさらに発展していくよう、関係者の方々と協力していきたいと考えています。

なお、「リスボン祭り」では、恒例のリベルダ通りでのパレードにも、APUの学生グループが外国人として特別参加しました。パレードの最初に登場した、この若者達の力強くも整然とした演技に、リスボン市長も多くの市民と同様、大きな喝采を送り、参加への感謝の言葉をいただきました。

「日本祭り」の開催や「リスボン祭り」への参加を通じて、先月はリスボン市においても日本の存在を大いにアピールできたのではないかと思います。

先月初めには、農業副大臣に誘われて、リスボン北東約300キロのフンダオン市で行われた「サクランボ祭り」に行ってきました。4月に、リスボン日本人会で桜のお花見にお邪魔したところであり、市の関係者へのお礼も兼ねての訪問です。村の通りに面した家々が、自家製の「サクランボ」製品のお菓子や食品を道行く人々に試食してもらうという、素朴で楽しい地方のお祭りです。

良質のサクランボはこの名産品で、他の欧州諸国にも輸出しており、日本市場にも出荷したいとのことでした。ポルトガル政府から要望のある「イベリコ豚」の輸入解禁も含め、日本側で検疫などに係わる規則改正が必要となりますが、両国間の貿易の拡大のため、今後とも検討を進めたいと思っています。

先月10日は、ポルトガルの国祭日である「ポルトガルの日」でした。毎年、地方都市を順番に選び、そこに大統領が各界代表や外交団を招待して祝賀会を行います。今年は、リスボン東方約200キロのスペイン国境に近いエルヴァス市で行われました。伝統的に農業地域であるアレンテージョ地方での式典ということもあってか、大統領は演説で、経済危機において農業の果たす役割の重要性を強調されたのが印象的でした。とはいえ、この地方は全国でも経済発展が比較的遅れ、失業率も平均以上で、経済危機の痛みを一番感じている地域の一つです。

コエーリョ政権が発足してちょうど2年目になりますが、不況や失業がますます深刻で、政府の高官が各地で民衆から怨嗟の声をぶつけられる話はよく聞いていました。国祭日の前夜祭で、大統領夫妻に各国大使夫妻が祝賀を述べる行事がありますが、今回は珍しく予定より遅れての開始となりました。その後、夕食会場に大統領とともに外交団が徒歩で移動する途中、地元の人でしょうか、初老の男性が大統領に向かって激しい抗議を行う場面に遭遇しました。大統領への挨拶の式典が遅れたのも、同様の事件が先ほど発生したためだと、後で聞きました。大統領は夕食会の後、ファドのコンサートに欠席しました。また、コンサート会場に首相夫妻が到着した際、大会場を埋めた人々から激しいブーイングが執拗に続いたのにも驚かされました。

国民の不満の大きさを実感するとともに、外国使節の前で自国民から罵倒される大統領や首相も気の毒に思いました。この厳しい緊縮策は、政府も好きでやっているわけではありません。当国の努力は、海外から非常に高く評価されてもいます。温厚なポルトガルの国民性から、暴力事件もほとんど見られません。今回の光景は、あまりポルトガル人らしくないものだけに、この国の厳しい状況を図らずも各国大使の目に焼き付けた事件となりました。

同時に、当国の財政危機が公的債務の支払い資金の調達問題から発展したことを考えると、条件は違うとはいえ、対GDP比で日本が当国より遙かに高い公的債務を抱えており、経済・財政の破綻の恐ろしさは他人事ではない、と感じた次第です。

財政再建への支援期間もあと1年、その先に経済成長を果たさねばポルトガル経済の安寧は訪れないという現実があります。引き続き、動向を注意深く見守っていきたいと考えてい

ます。

時節柄、皆様にはご自愛の程をお祈り申し上げます。